

令和3年度 住民と多職種研修会 ご報告

日時:令和3年12月1日(水)13:30~15:00 参加者:270名
 会場:マルホンまきあーとテラス 大ホール

〔住民 160名
 専門職等 110名〕

【講話】

「死にゆく人の心に寄り添う ～スピリチュアルケアとは～」

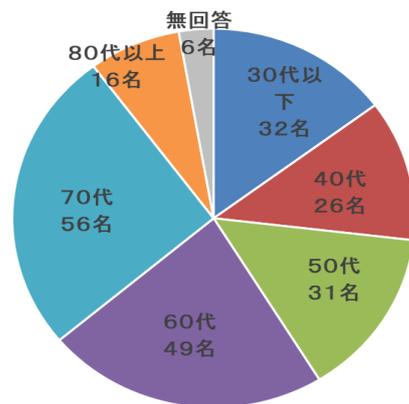
【講師】

非営利一般社団法人大慈学苑 玉置 妙憂 氏

【内容】 以下、一部概略

- ・昔は"死"に身近に触れる事ができたが、今は"死"が遠い存在となっている。
- ・"死"を語ることで自己タブー化されている。
- ・(医療行為など)選択肢が多くなったことで、迷いが生まれる。
- ・どの選択肢を選んでも後悔するが、明確な答えはないため、苦しむ事になる。
- ・この苦しみを支え、ケアする事が「スピリチュアルケア」である。
- ・第一に自分自身を満たす事を優先させる。そうすれば、他人にも尽くす事ができる。これは、「自利を以て利他を為す」という仏教精神を元にした考え方である。

参加者(人数) ※年代別
 (参加者計270名 アンケート回答者216名)



<参加風景>



玉置 妙憂 氏

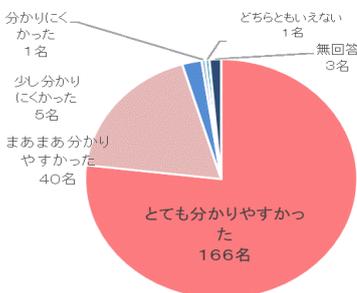


感想

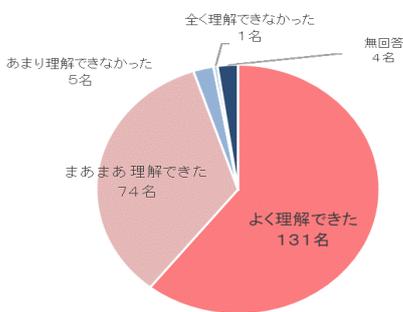


<アンケート結果(回答者:216名)>

講師の説明について



講座内容について理解できたか



●今、とても人生に悩み、躓いて生きることに疲れていました。今日、「自利を満たす」の言葉を聞いて、少し理解できて心か軽くなりました。今年で30歳、これからゆっくり頑張ります。

●以前、先生の本を読み、今日お話を伺うことができ大変うれしく思います。看護師の仕事をしていますが、患者さんとの会話でスピリチュアルケア・ペインの場に関わることがあり、自分の無力さに落ち込むことがあります。今日のお話を聞いて、ちょっと気持ちが楽になりました。ありがとうございました。

●とても聞きやすく興味深い話だった。できれば、時間をもう少し取ってほしい。

●玉置氏の話がとても分かりやすく、飽きることなく話を聞いた。オンラインではない場の力を感じた。このようなイベントをもっと行ってほしい。

●中心静脈カテーテルや胃瘻を行わなかった家族が「自分が殺してしまった」と感じてしまうことが多いと言っていたことが、とても印象的でした。

自分も、自身の家族に対して、今は自然な死を迎えさせてあげたいと思い、延命はしたくないと思っているが、先生の話聞き、確かに後悔する時もあるのかもしれないと感じました。だからこそ元気な今の内に、自分の考え・家族の考えを共有し、延命など本人の希望を聞いておこうと思いました。

●ターミナル期の方の、ケアと同じく震災後、心に傷を抱え、スピリチュアルペインの声を静かに発し続けている方々への寄り添い方・在り方を学ばせていただきました。ありがとうございました。

●自分の気持ちに余裕がないと相手に伝わり、不安を与えてしまうことを改めて感じました。自分の為にもまず、心を満たしたいと思います。